

ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術について (SP)

患者番号: @@SYPID@@

患者氏名: @@ORIBP_KANJI@@ 様

1. 現在の病状、診断名、重症度 / 検査等の目的

前立腺は、膀胱と陰茎の間に位置する男性固有の器官であり、精液の一部を作る働きを持っています。この前立腺から発生した癌が前立腺癌です。

前立腺癌の治療方法には手術療法、放射線療法、内分泌療法などがあり、病気の進行具合や体の状態に合わせて治療法が決定されます。

今回、あなたの前立腺癌は、手術を行うことで根治の可能性がある病期と診断されました。癌のある前立腺を摘出することで根治を目指します。

2. 必要とされる医療(手術、麻酔、検査、その他治療)とその方法

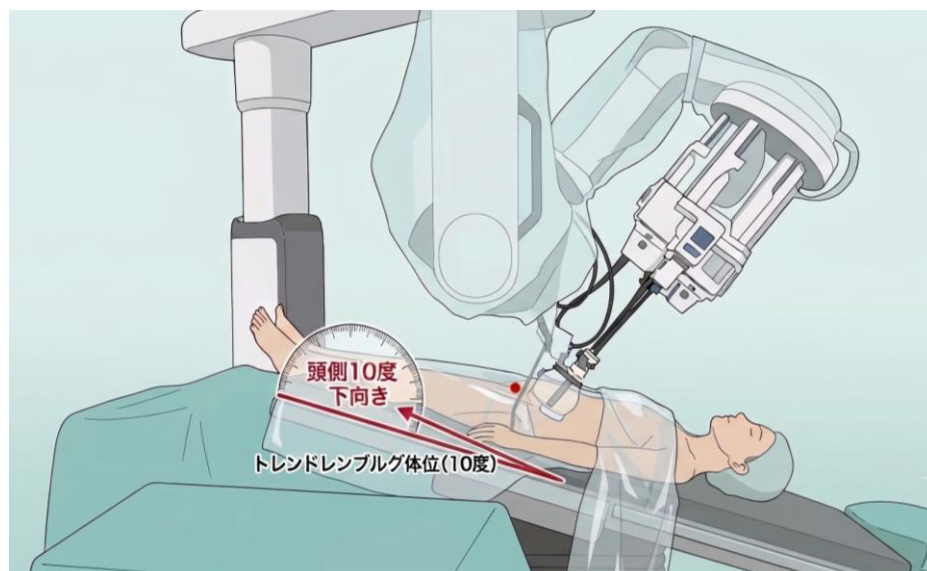
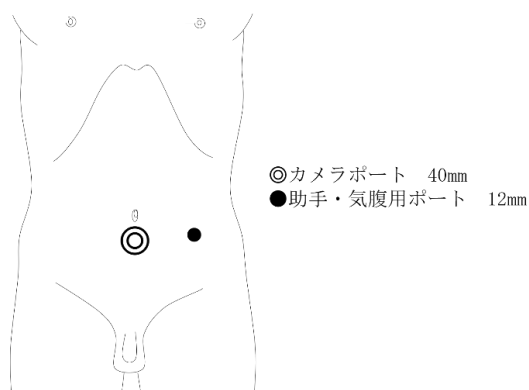
癌のある前立腺を摘出することで根治を目指します。

手術日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

手術時間: 2 ～ 2.5 時間

頭低位 10 度で行います。

へそ下に 4 cm の切開をおき、後腹膜腔を拡張し、アクセスポートを留置します。左の下腹部に 12 mm の小切開をおき、助手用のアクセスポートを留置します。



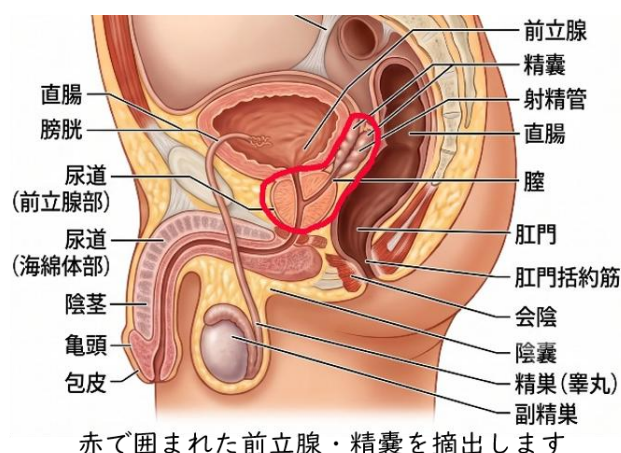
ロボット本体とドッキングを行い、手術を開始します。始めに二酸化炭素を注入してお腹を膨らませます。

前立腺、膀胱と前立腺を切離します。膀胱後面に前立腺とつながっている精嚢を剥離、精管を切断します。

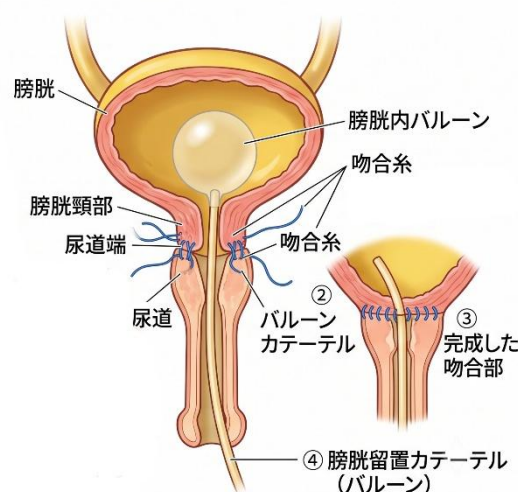
次に直腸と前立腺・精嚢の間を剥離します。

最後に前立腺と尿道の間を切離し、前立腺・精嚢を摘出します。

その後、膀胱と尿道の吻合を行います。膀胱内に尿道カテーテルを留置し、生理食塩水を注入し、吻合部の漏れがないことを確認します。ドレーン(排液のためのチューブ)を留置し、閉創し終了します。ドレーンは術後2日程で抜去します。



膀胱尿道吻合の様子



3. 上記医療の予想される効果と限界

ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘術では、開腹手術に比べ、傷が小さいことから、術後の痛みが少なくなります。また、内視鏡の拡大視野とロボットの繊細で正確な動きにより、出血量も少なくなります。また、術後の尿失禁の回復が早い傾向にあります。

4. 上記医療を受けない場合に予想される病状の推移

治療を受けられなかった場合は、今後、腫瘍が進行していきます。進行速度には個人差があり、具体的な余命等は断定できません。前述のPSA監視療法と異なり、積極的な検査も受けられなかった場合、適切な治療時期を逃す可能性が高くなります。

5. 上記医療の代替え治療法と予想される病状の推移

【PSA監視療法】

前立腺生検の結果、悪性度の低い癌がごく少量のみしか認められず、治療を行わなくとも余命に影響がないと判断される場合に選択されることがあります。

【放射線治療】

前立腺癌に対し、身体の外から放射線を照射し治療します。放射線の線量が多くなるほど効果が高くなります。しかしながら、その分、周囲の正常組織(膀胱、直腸)に当たる線量も増えるため、副作用が多くなります。一般的には1日1回週5回を8週間前後行います。副作用は、下痢、排便痛、消化管出血や頻尿、排尿時痛、血尿、尿道狭窄などがあり、治療後時間が経過してから起こることもあります。

【内分泌療法】

前立腺癌は男性ホルモンの影響を受けて、増大するという特徴があります。内分泌療法は男性ホ

ホルモンを遮断することで、癌の進行を止める方法です。

癌が転移している場合や、年齢や合併症などから手術が適応とならない方に対し、治療法の選択肢の一つとなります。また、放射線治療と併用することがあります。今回、あなたの病状では、手術により根治を見込めますので手術療法の方が有効と考えます。

6. 起こりうる合併症と危険性・死亡の可能性

術中合併症

【直腸損傷】

前立腺の後面には直腸が接しており、手術の際にその境界を剥離します。癌が進行している場合など癒着が強いことがあり、剥離の際に直腸損傷を起こす可能性があります。小さな損傷であれば縫合処置を行い、術後の食事を遅らせることで治癒します。しかしながら、損傷が大きい場合、一時的に人工肛門を造設し、損傷部が治癒するまで便の通り道を変更することになります。一般的には 0.1% の頻度で報告されています。

【術中出血】

予定出血量は 50～200ml です。しかしながら、前立腺前面には陰茎から心臓へ帰る静脈が多くあり、出血が多くなる場合もあります。出血量が多い場合は輸血を行います。

【深部静脈血栓症】

長時間同じ姿勢を続けると、足の血流が停滞し、血栓ができてしまい、起き上がったときなどに急に血管からはがれ流れていき、肺塞栓症という病気を起こすことがあります。長時間の飛行機旅行などで起こるエコノミークラス症候群と呼ばれるものと同じものです。肺血管が詰まると、急に呼吸苦や胸痛が出現し、場合によっては心停止、死亡に至ることもあります。手術中に長時間同じ姿勢でいることや、術後、長期安静を必要とした場合に起こりやすくなります。最近の報告では、手術 1 万件あたり 3 人ほどが、この肺塞栓症で死亡するといわれています。手術が上手くいき、順調に回復し、歩き始めた時に突然発症してしまうのです。稀ではありますが、重篤な結果をたどることもあるため、当院ではリスク分類に基づき、間欠的空気圧迫法やハイソックスなど適切な予防処置を行います。

【気腹による合併症】

腹腔鏡下に手術を行う場合、腹腔内に炭酸ガスを注入し(気腹)、膨らませることで術野を確保します。注入した炭酸ガスが、血中に入ることで、術後に頭痛が出る場合があります。また、ごく稀に大量のガスが血中に入り、ガス塞栓を起こし、心臓や肺に障害が出る場合があります。術中は、麻酔科医により、体内の二酸化炭素の濃度や、体の状態をモニタリングしています。何か異常があった場合はすぐに対応できるようにしております。

また、創部から皮下に炭酸ガスが入り、皮下気腫をつくる場合がありますが、日にちとともに自然吸収されます。

術後合併症

【吻合不全】

尿道カテーテルは手術後 3 日目に造影検査を行い、吻合部の傷が治っていることを確認してから術後 5 日目に抜去します。

膀胱と尿道の吻合部から尿漏れが続く吻合不全を認めた場合は尿道カテーテルを抜去せず、1～2 週間後に再検査を行うか、尿道カテーテルは挿入したまま退院とし、後日外来で抜去します。

【尿失禁】

バルーンカテーテル抜去後には尿失禁を認めます。数か月後には約 50%の方がほとんど漏れない状態を保てるようになりますが腹圧時、激しい運動時に少量の尿失禁を認めることがあります。前立腺を摘出し、尿道の新吻合を行うという手術の特性上、手術後は一定の尿失禁を認めることを十分ご理解ください。

術後早期はあまり気張って排尿しないようにしてください。尿道膀胱吻合部から尿が再度漏れる場合があります。数日尿道カテーテルを留置すれば自然に軽快します。尿道カテーテルは退院後外来で抜去することもあります。

【勃起障害】

手術により勃起神経を切断するため、勃起障害となります。癌の進行状況により、神経温存を行うことができます。しかしながら、神経温存を行った場合も、片側温存で男性機能の回復は2割から3割程度といわれています。

【創部感染】

予防的に抗生物質を術中、術後に投与します。

【その他予期できない合併症の可能性】

麻酔によるアレルギーや、偶然、術中に脳梗塞や不整脈が起きてしまうなどの可能性があります。起きた事態に対し、最善の処置を迅速に行うことで対応いたします。

【手術関連死について】

近年の腹腔鏡手術は、技術が向上し、安全性も高まっていますが、重篤な経過をたどる可能性や死亡の可能性もあります。文献的には約 0.2%と言われています。

このほかにも、想定外あるいは未報告の合併症が発生する可能性は否定できません。しかし、そのような場合でも、全力を尽くし対処いたします。

7. 麻酔について

全身麻酔(硬膜外麻酔を併用する場合もあります)で行います。

麻酔剤や抗生剤などの薬剤によるアレルギー反応(ショック、湿疹など)や、副作用を生じることがあります。副作用発生時には適切な処置を行います。

8. 輸血について

- ☐ 現時点では輸血は予定していません。
- ☐ 別紙「輸血療法および特定生物由来製品使用に関する説明書」の通り説明します。

なお、全ての手術や出血する可能性のある治療には輸血をとまう可能性があり、輸血拒否により手術・治療の同意書が得られない場合であっても、救命のための緊急手術・治療が必要な場合は手術・治療を実施いたします。

9. 予測できない偶発症の可能性と対応について

予測できない、または極めてまれな偶発症や合併症の発生は、患者さんの個人差等もあり、起こり得る全ての可能性をあげることにはできませんが、これらの偶発症や合併症が発生した場合には最善の対応を行います。

10. 治療予定の変更やそれに伴う費用負担について

治療中の判断や予測できない偶発症等により、予定していた治療方法を変更・中止すること、あるいは当初の目的が達成できなくなることがあります。また、合併症や偶発症に対し治療が必要となる場合があります。これらの治療に伴う費用は健康保険の適用となります。

11. セカンドオピニオン

他院で治療についてのご意見を聞かれない場合（セカンドオピニオン）はご遠慮なく担当医へお申し出ください。それに伴い不利益な取り扱いを受けることはございません。

12. 同意を撤回しても不利益は受けないこと

一旦、同意書を提出しても、治療が開始されるまでは同意を撤回することができます。同意を撤回される場合はその旨をお申し出ください。同意を撤回しても不利益な取り扱いを受けることはございません。

13. 治療を辞退できること

説明を受けても同意・承諾できない場合は、治療を辞退することができます。

上記について説明致しました。

説明日: @@DYTODAY@@

説明医師: ベルランド総合病院 @@SYDPTNAME@@ @@SYUSRNAME@@

(病院控え)

患者番号: @@SYPID@@

患者氏名: @@ORIBP_KANJI@@ 様

同意・承諾書

ベルランド総合病院 病院長殿

私は、別紙説明書に基づいた説明に関して @@SYUSRNAME@@ 医師 からすべての項目について十分に説明を受けるとともに質問する機会を得ました。

これらの説明により、説明各項目および関連する事項について確認し理解できましたので、説明を受けたすべての事項に関して同意・承諾いたします。なお、本同意・承諾は、治療期間中あるいは今回の入院期間中において有効とします。

同意年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

承諾者氏名
(本人自署) _____ 代諾の場合患者との続柄(_____)

連絡先電話番号(_____)

同席者氏名
_____ 患者との続柄(_____)

連絡先電話番号(_____)

_____ 患者との続柄(_____)

連絡先電話番号(_____)

説明医師 @@SYDPTNAME@@ @@SYUSRNAME@@ (同席者) _____

(患者様用)

患者番号: @@SYPID@@

患者氏名: @@ORIBP_KANJI@@ 様

同意・承諾書

ベルランド総合病院 病院長殿

私は、別紙説明書に基づいた説明に関して @@SYUSRNAME@@ 医師 からすべての項目について十分に説明を受けるとともに質問する機会を得ました。

これらの説明により、説明各項目および関連する事項について確認し理解できましたので、説明を受けたすべての事項に関して同意・承諾いたします。なお、本同意・承諾は、治療期間中あるいは今回の入院期間中において有効とします。

同意年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

承諾者氏名
(本人自署) _____ 代諾の場合患者との続柄(_____)

連絡先電話番号(_____)

同席者氏名
_____ 患者との続柄(_____)

連絡先電話番号(_____)

_____ 患者との続柄(_____)

連絡先電話番号(_____)

説明医師 @@SYDPTNAME@@ @@SYUSRNAME@@ (同席者) _____